

第12回学術大会抄録

4 臨地・臨床実習における欠席状況と学業成績・生活背景の考察

天池千嘉子, 本間和代, 江川広子

明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords : 臨地・臨床実習Ⅱ, 欠席状況, 生活背景

はじめに

一般的に, 授業の出席を妨げる要因, 欠席を促す要因として基本的生活習慣との関連が強いことが実証されている¹⁾。本学でも臨地・臨床実習において体調不良を理由に欠席する者が多くみられるが, 実際には生活習慣が影響しているのではないかと考えた。そこで学生の欠席に影響を与える要因について, 生活背景や学業成績との関連について調査し分析した。

対象および方法

対象は平成25年度歯科衛生士学科3年生女子58名とした。臨地・臨床実習Ⅱの期間中(H25.4.17~H25.9.26)の欠席コマ数(1コマ:90分, 1日=4コマ)と生活実態について自記式記名によるアンケートを実習終了後に実施した。内容は居住形態およびアルバイト, 余暇の過ごし方, 臨地・臨床実習の欠席理由についてである。学業成績については平成24年度の2年次総合成績を用いた。

結果および考察

欠席コマ数は1人平均10.4コマで, 1~8コマ群が最も多く18名であった。また欠席なし群が13名, 最多欠席は56コマであった。欠席コマ数増加とともに学業成績は低くなった(図1)。欠席理由として体調不良が53%, 精神的疲労が30%, その他サボリ等が13%の順であった。欠席コマ数が多い群は体調不良等の不可避の欠席よりも, 本人の心の弱さなどによる欠席が多く見受けられた。

居住形態では, 自宅が57%, アパートが22%, 寮が21%で, 平均欠席コマ数は自宅生が10.3コマ, アパート生が16.5コマ, 寮生が4.3コマとなった。1人暮らしの自由さと寮生活の規則正しい生活面の違いが明確

に示されたと言える。

アルバイトに関しては, 行っていた者が68%, 途中でやめた者が17%, 行っていない者が15%であった。欠席コマ数別では, 欠席なし群で行っていた者が54%, 33コマ以上群では, 行っていた者が, 50%で差異はみられなかった。アルバイトの有無よりも働き方に問題があったと考えられる。

余暇の過ごし方では, 実習記録のまとめ100%, テレビ等の視聴が79%, ネット・SNS, 友人付き合いがそれぞれ73%となったが, ネット・SNS, テレビ等の視聴が一週間を占める時間が多かった。

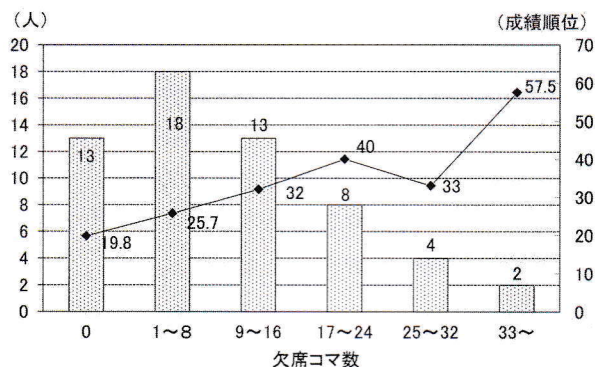


図1 欠席コマ数別人数と成績の関係

まとめ

1. 欠席コマ数が多くなるにつれ成績順位が低くなった。
2. 居住形態では, アパート生の平均欠席が16.5コマで全体の平均10.4コマを大きく上回った。
3. アルバイトの有無と欠席コマ数の関係は認められなかった。
4. 余暇の過ごし方では, ネット・SNS, テレビ等の視聴が占める時間が多かった。

参考文献

- 1) 合掌かおり, 歯科衛生士科学生の生活習慣と学業成績の関連, 日衛学誌, 173, 8-1, 2013